

# まとめ

**積極的に動く先生のクラスの子どもたちは、運動能力がそうでないクラスの子よりも高い。**

→ 分かっているようで、明確になっていなかったポイントですね。大人も運動量が多い方が仕事効率が向上すること、精神疾患の予防になることが明らかにされています。是非、子どもと一緒に体を動かしてください。

**幼児期運動指導（運動遊び指導）リーダー保育者養成研修で習得した内容を実施すると、子どもの運動能力が向上する。**

→ 体系だった運動遊びは、結果的に怪我が少なくなります。今回の調査では怪我の推移は見えていませんが、間違い無く顔や歯の怪我が減ってきているはずです。

**担任の先生が、運動遊びを意欲的に実施することの効果は、子どもの運動能力として表れる。**

→ 運動に限らず、先生が熱心に取り組んでいる活動は、子どもたちにシッカリと伝わっていることでしょう。運動だけをしてくださいということではありません。バランス良く、子どもの成長に必要な取り組みを実施していきましょう。

**担任の先生からみて、幼児期運動指導（運動遊び指導）リーダー保育者養成研修の前後で子どもたちが成長したという実感がある。**

→ 運動遊び以外にも、様々な要因が関与しているでしょう。子どもたちは、放っておいても伸びる部分、放っておいたら伸びない部分があります。特に、心理的な側面は大人や異年齢の関与が不可欠です。「憧れ」「夢」「自発性」といった子どもの「やってみたい！頑張る！」という気持ちを大切にすることで、子どもたちは成長する力を存分に発揮することができるでしょう。

**園長の評価によると、幼児期運動指導（運動遊び指導）リーダー保育者養成研修で、担任の先生の姿勢が変わったという結果が得られた。**

→ 自信をもって運動遊びを提供することで、発達年齢にあった活動が明確になるのかもしれない。先生自身も楽しみながら、様々な保育・教育活動を実施していきましょう。